

文学部生のリアルな学生生活①

◆◆◆◆◆
今月号から「文学部生のリアルな学生生活」をスタートします。
文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆様にも文
学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの
取り組み等の情報を発信いたします

スチューデント・ライブラリアン活動報告

文学部人文社会科学科社会情報学専攻
図書館情報学コース三年

岩崎 まる美

(私立中央大学杉並高校)



スチューデント・ライブラリアン

企画を出展しました。

ン(以下、SL)は、文学部で司書課程を履修している学生の有志です。高校生による「リエゾン文庫」(文学部の一三専攻分野に関する書籍を集めたオリジナルの文庫)の利用を推進すべく、約四カ月間、附属高校である中央大学杉並高校の図書室に派遣されます。

今年度は、二年生三名・三年生

二名の計五名が集まり、杉並高校

の文化祭である「緑苑祭」への参

加をメインに活動しました。杉並

高校からは有志として六名もの現

役高校生の協力を得ることが出来、

高校・大学の垣根を越えた和気あ

いあいとした雰囲気の中で、展示

・学術書について」と、「青春小説について」の二つです。前者は大

学生が参加している団体として、

少し発展的な内容をこしらえたか

った(見栄を張りたかつたともい

う)ために設定し、後者は展示を

見に足を運んでもらうきっかけと

なるような親しみやすいテーマと

して設定しました。

テーマ決定後は、高校生と大学

生混合でチーム分けをし、それぞ

れで内容を詰めていきました。「そ

もそも青春とは何なのか?」とい

うテーマでディスカッションを行

ったり、杉並高校全校生徒を対象

としたアンケートを実施し、その

◆◆◆◆◆
結果を実際の展示に利用したりする
など、創意工夫に富んだものが
完成し、緑苑祭当日に臨むことが
出来ました。緑苑祭期間中の観覧
者数も予想以上に多く、いつ展示
コーナーを覗いても必ずお客様が
いるという状態で、大変満足のい
く結果となりました。

この四カ月間の活動で印象に残

っている点は、高校生たちの豊か

な発想力と行動力です。私たち大

学生のみで、ある程度企画の基盤

を固めてから高校生の募集を開始

したので、正直なところ、人

数が集まらないと思っていました。

読書が好きで生徒が参加を検討し

てくれるような募集チラシを製作

したとはいえ、「若者の読書離れ」

が問題となっている現代、本が好

きたという生徒自体がそもそも少

ないだろうし、わざわざ大学生の

元に集まってみようと決意をして

くれるほど高校生たちも暇ではな

いだろう……と考えていました。

しかし、実際に募集を開始して

みると、大学生の人数よりも多い

六人もの高校生が集まり、積極的

に企画を盛り上げてくれました。
大学生だけでは思い付かなかった
ようなたくさんの斬新な発想をあ
りのままぶつけてきてくれたので、
アイデアに困ることはほぼなく、
むしろ限られたスペースの中で、
どのようにスッキリとまとめるか
に苦労したくらいでした。

SLの活動を終えてみて、反省



高校生との打ち合わせの様子

している点が主に二つあります。

一つ目は、SLとして緑苑祭に参
加すること自体が初めてであった
こともあり、大学生側も手探りで
企画を進めていたため、高校生た
ち全員をしっかりと手助け出来な
かったことです。せっかく「大学
生と高校生との共同企画」として
活動しているにもかかわらず、高
校生本人の裁量に任せて企画を進
めてもらった部分もありました。
来年の後任SLたちには、より積
極的に高校生たちをフォローする
意識を持って臨んでほしいです。

もう一つの反省点は、緑苑祭で
の企画を練ることで手いっぱい
になり、「リエゾン文庫を高校生たち
に広める」というSL派遣の主旨
を達成した実感があまり得られず
に活動を終えてしまったことです。
もちろん、緑苑祭への参加は、S
Lの活動として次年度も前向きに
検討してもらいたいのので、リエゾ
ン文庫の広報活動とのうまい両立
が図られることが先代SLとして
の願いです。

スチューデント・ライブラリア
ンは、今年度で二年目というまだ

歴史の浅い企画です。二期
生である私たちは、明確な
テンプレートがないため好
き勝手にやらせていただき
ました。前例がほほえない状
態から自分たちで考え、切
り開いていく作業は気苦労
が絶えず、途方に暮れるこ
とも時にありました。結
果として杉並高校の生徒た
ちに何かしらの爪跡をダイ
レクトに残して活動を終え
ることが出来たので、ホッ
としています。

新しいことを始めた組織
がある程度安定するまでには、
少なくとも三〜四年は
どかかると思います。次年度以降
のSLの方々には、私たちが不器
用ながらも無理やり切り開いてみ
た道を基に、更に良い組織づく
りをしていってもらいたいです。
いつかSLが文学部の名組織になっ
た頃に「私はこの企画の二代目代
表だったのよ」と誰かに語る機会
が訪れたら良いなあ……と、ボン
ヤリ思っています。

杉並高校の生徒たちは「課題図



緑苑祭での展示コーナー

書」を常に与えられていることも
あってか、本についての知識が豊
かで、かつユーモアも豊富であつ
たので(落語研究会の生徒が参加
してくれていたからかも知れませ
んね)、話していても楽しかつ
たです。この記事を読んでいる中
に司書課程を履修している学生が
いらっしやいましたら、来年度の
SLに参加を検討していただけた
ら幸いです。